

# 就労支援機関を利用して復職した方の事例

対象者：記憶障害、注意障害

## 【発症～治療】

- ・在職中に脳梗塞を発症、入院治療後に転院し、社会復帰に向けたリハビリを受ける。

## 【復職に向けた相談】

- ・高次脳機能障害相談・支援センターの紹介を受け、就労支援機関（**障害者就業・生活支援センター**、当センター）及び企業担当者と交えた話し合いを行い、復職を目指した支援の方針を確認する。

## 【支援の方針】

- ・企業担当者と相談し、6カ月後の復職を目指す。
- ・病院でのリハビリの最終段階で復職に向けた準備を開始する
- ・体力面の状況確認、記憶障害、注意障害に対する補完手段の活用や疲労のコントロール等の課題に取り組むために**職業準備支援**（10週間）を実施

# 当センターによる職業準備支援の実施内容

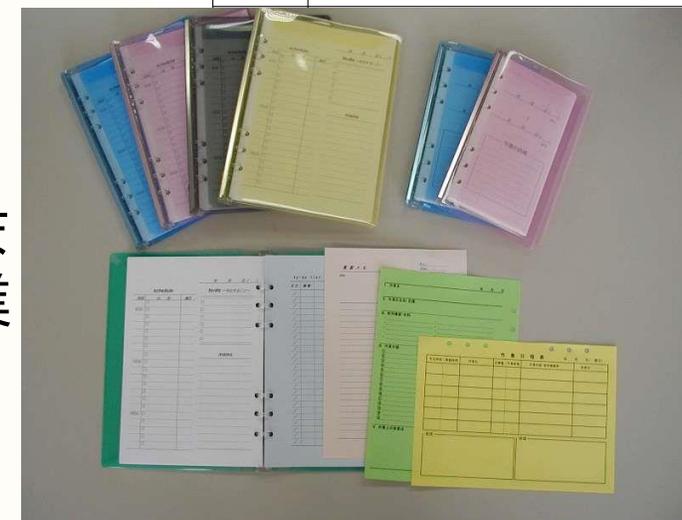
- 1週間の作業スケジュールを立てる練習
- メモリーノートの活用（メモをとる練習）
- 日誌の記入とふりかえり相談（疲労、体調、日常生活の管理）
- 疲労への対処方法の整理と実践
- ナビゲーションブックの作成（障害特性・補完手段・配慮をお願いしたいことの整理）
- 職業準備支援終了時に職場、ご家族、関係機関が集まり、職業準備支援での取り組み内容、職場復帰後の業務内容や必要な配慮について共有・相談を行った。

## ナビゲーションブック（自己紹介書）

御中（氏名：\_\_\_\_\_）

私は、〇〇と診断を受けています。私の得意・不得意、自分で対処していること、職場の方々にご配慮いただけたりと助かることについては以下のとおりです。ご確認のほど、よろしくお願いたします。

特 性	セールス ポイント	〇作業面
		〇対人面
		〇思考・行動の特徴
性	苦手な こと	〇作業面
		〇対人面
		〇思考・行動の特徴
体調面		



# 復職に併せた職場での支援

よりスムーズに復職できるように、**ジョブコーチ支援**を実施（3カ月）

## 【本人への支援】

- ・ 確実に作業を行えるよう、手順書やチェックリストの活用を提案
- ・ 職場における本人の不安なこと、体調についての聞き取りを実施

## 【企業担当者への支援】

- ・ 本人にとってわかりやすい作業指示の伝え方を助言
- ・ 職場担当者が障害特性について理解を深められるような助言
- ・ 対象者にとって働きやすい環境づくりについて提案
- ・ 職場全体で理解を深めるための**当センターカウンセラーによる社内研修**の実施

# ジョブコーチ支援での実施内容

## 【本人への支援】

- 1つの作業につき1枚の手順書を作成できるよう助言
- 一工程ごとに作業を実施したかどうか確認できるチェック表を作成

## 【企業担当者への提案】

- 本人の作業スケジュール表の作成
- パーテーションや目印の設置

## 参考例

酢あわせ作業

- ①手にアルコールを付ける→手袋を付ける→手袋にアルコールを付ける。
- ②シャリロボの「ドラム復帰」ボタンを押す。
- ③スプレー（無菌潤滑油）をシャリロボのカマに吹きかける。
- ④炊飯器からネットごとご飯を取り出し、シャリロボのカマに入れる。
- ⑤しゃもじでご飯をほぐす。（5～6回）
- ⑥酢を1袋入れ、かきまぜる。（2～3回）
- ⑦フタを開める。（3か所ロックがかかっているか確認してくださいね）\*ロックは上からとめる。外す時は下から外す。
- ⑧「スタート」ボタンを押す（出来るまで7分かかります）

【シャリが出来るまでにすること】

- ⑨クラフレックス（緑のふきん）で炊飯器のふちをふく。
- ⑩手袋をはずし、炊飯器のカマを黄色のスポンジで洗う。
- ⑪ネットは水洗い後、軽〜く絞って流し台の前にかける。（水滴が落ちなくなったら隣の調理場に干しに行く）

作業手順書



障害者職業総合センター職業センター実践報告書No.40  
高次脳機能障害の復職におけるアセスメント

# ジョブコーチ支援終了後のサポート

- ジョブコーチによるフォローアップを実施（1年間）
    - 作業への適応状況の確認
    - 本人の体調、仕事上の不安についての聞き取りを実施
    - 会社担当者への近況の確認
  - 新たに本人に任せる業務の切り出しを実施
  - 並行して**障害者就業・生活支援センター**による定着支援を継続
- センターと障害者就業・生活支援センターの間で情報交換を行い、必要に応じて支援を行うことができるよう体制を整える